

### 磐城之實業

（行發日五十一回二月毎）

印刷所 磐城印刷局  
 印刷人 大和田興兵衛  
 印刷部 大和田興兵衛  
 印刷部 大和田興兵衛  
 印刷部 大和田興兵衛

……は命生の刷印  
 字活な明鮮

## 題して鈴木の清黨運動と呼ぶ

### 平市政の政友を一元化するべし 是れが彼のこるべき最好手段

平市政の第一次役員選任に於て野崎、沼澤兩派の聯盟によつて役員獲得の悉くが市民の心を刺戟し、唯ひの眼を以てそれを見た、然しこれも夫れ一時的の所謂政治の相引として其後冷僻に何時かは離散する時機の過程を眺めて、勿論斯くあらざる事が野崎君としては望む處であらうが、沼澤一派として敢て、追隨無抵抗主義だとの懸望が日に其の聲の大きさを加へ、關内君をして敗けて降たしめ、同情を集めしむるの因を造りつゝあるやうなものである。

## 考ふべき一事

深敷の信用組合の總代人選から理事選挙の事を深く考へなくてはならない。兩派は然も露骨に關内排斥を策謀して、猛烈な運動をしたが結果は現状維持で反對した彼等は返つて

## 政黨間の闘争

文節もせず率直に云ふが政黨間の闘争が當然なる事に依り、政黨が少しも平はす況べ

## 關内より

### 寄り合へ

記者は鈴木氏にも關内君にも又沼澤君にも遠慮も御世辭の必要もない立場にあるが鈴木氏は今一度勇にしたい氣がする。關内にはあまりにイジメられるので同情心が起るが大いに悲憤に親むことである。沼澤には政黨人としての眞剣味と修養と訓練の必要を要求すると無遠慮の處を云ふ、由來政治家には舊い型と新しい型がある、舊い方は人生意識に勤心持ちで行くから感情が強く、新しい方は政治は道理で行くべしと云ふ、それが感情には比較的冷たい、そして鈴木氏は舊い方の風合に屬するから關内を憎むやうになつたのである、是れには關内にも悪い點がある、關内は役問題は最早水に流すべしである、前回の選挙に星も助けず、星も水に流すべしである、然

## 強力一丸

### は必ず勝てる

小なる市會の如き一派が二分し、それも反對派の傘下に子分あつかへされて居ることは親分たる鈴木が大家に突はれるのである、政治家はよろしく社會發展の實際に對する科學的見識を必要とする云ふ、建前から非常時下に感情などによつて左右されるべきものではないと大處高處から理由を付ければ建前の如き問題ではなかつた、一歩進めば、兩派の者尙然りである、此時一歩進んで石城部會の役員職を斷行して星の方に片付けるのである無條件で星が引受けるものではない、然し居處を郷土に置かねば、士ともあらうものがお生憎で引受ける時は、關内が八面六臂の活躍を請合で此時時事長初め幹部の大改造をなし、段々星の無路を通る政友に一花咲かすべしである。

## 作戦によつて

### は必ず勝てる

たしめるのが鈴木の大い處である、それを小策を弄して反對派と組みなすれば鈴木は政治生命は終りである、反對派が當選したとて政治常道論が立つか、それを個人とし私情を持つてすれば、私情を以ては公黨であるから感情はさりと捨て、たとつて關内を助けたいならば星もまさか應援せざる譯にも行くまい、所謂先手を打つての作戦は必ず選挙は失敗するは信じて疑はない、關内たるもの感涙にむすぶであらう、是れやが鈴木立候補に大影響大進展となるのである、然し鈴木氏はは書齋人として足りない處がある、即ち同志を募り石の如く平等に見ることの出来ない短所がある、一つの石は何處までも一つの石であつて非間に價値の區別を付けてはならないのである、それを特種關係をつけたがるから依怙最厚だと同志に不平が起る様子である、此事などは特に心を用ひべきである、然るを従來通の放漫外交とするならば鈴木の大敵は來つて天下の泰再び来ないかも知れない、それ同志の行標は時に異同があつても選挙には終始一貫でなくてはならない、此處が政黨人としての修練の必要と又御大としての努力を要する點で注意すべき要事也（以下二面へ續く）

### 支那に慰問せよ

世人鈴木氏をして近來意氣銷沈元氣がないと云ふ、理智に優れた人間はよく大體徹底して冷静になるものだから彼れ又地主重來を期するより今が休養の時であるかも知れない然らば尙更ら北支支に將兵慰問に出掛けるがよい軍當局がそれを許さなければ上海位までも結構である、それは主として産業に重きを置いて郷土製品をの販路を計畫して歸郷早々各地で紹介の論陣を張ることである此處に政治に新生命があり、地方出身の代議士で郷土製品を基礎とした好意的調査報告を誰がしたか政治は口には非ず努力である、先に論じた政治家の社會發展の實際に對する科の見識の必要は此處に在ると記者は鈴木氏の爲めに重ねて云へ一考を促すに切なるものである

### 笑はせる途説を聞

以上記述して來つて奇怪至極のこととは明秋縣議選に一部政友派は平市から當局的候補者を出して反對黨候補者に有利にせんと密々噂をして居るとのことである、こんな事は信じられないが萬に一つも事實と

### 一人舞台か 夫共對立か

關内君の立候補は亦と確定的であるらしい常人も其氣持で居ることであらう、彼は市會になつて轉運不遇の歳月を送つてゐる何となく倦て來た猫のやうな感じを覗かせる、是を縣議選は強く正しく明るき政治に彼をして大いに生るか死ぬかの絶好の機会を與へるのである、勝てば前途は祝福されれば敗れば來來は來しられからして彼たるもの徹底的に勝つのが條件である、然し上手の手から水が漏れて餘りに巧妙なる策謀には破綻が生ずることがある、今日政界兩派から攻撃されて居る處に關内は同情があるのだから選挙にはこのコツで臨むべきである、若し夫れ反對派にして立候補者なしとすれば無論一人無黨で彼の徳と云ふもの大衆に感謝すべきもので得待たして順境となつたもので有秋の筆法を以てすれば從來の反

### 指導原理

鈴木氏には澤山の子分がある中には鷄鳴狗盜と云つたやうな人間が居ないとも限らない去れば政界指導原理によく注意すべき事である

### 郡南政界 噂に上る人々

石城郡南部に於ける政界の噂話を傳へ、赤津庄兵衛が復職の恩赦に浴すれば來年の縣議選には環境の義理合から馬を陣頭に進ませなくてはなら

### 無盡の努力 組合と湯本

前號に於て湯本無盡株式會社と重復陳を論じた處、大なる反響があつて各方面から二十幾人からの新聞を希望して來たので我社も其記事の社會に裨益する甚大さを感して思つた、依つて稿を改めて無盡と産業組合とを論じて見たい

ないと言合の筋もあるが彼が身代は中秋の草陰に蜘蛛の音にも比して細り行く今の境涯ではどうかと思はれるよと云ふのが多數を占めてゐる、其時には金成欽次か山崎登か兩者其のいづれかに決するものと見るのが妥當ではあるまいか、然し兩者は居處を同じうし且特別關係の間柄である人物も一長一短で單に異なる處は金を持つと持たないの點である、けれ共大體に於て山崎君に決する雲行が濃厚であることである以上は政友會の事である、此度は民黨黨のことであるが現議員の小松君には再選支持者が多い又

彼もその野望が絶無ではない或ひはスラ〜と進んで再び立候補することであらうかも知れない斯くなる時は當選確率である、若し退選する場合は赤津修一君であるが勿來町で二回も連続的に候補者を出すことが地方的慣習として面白くないとすれば積田町に其の人物を物色することになる第一に坂本龜太郎君である金もあるし人物年齢にも不足はないからお鉢が廻ることになるかも知れない、但し此時に當つて少壯にして政治に理想の土未請負業成瀬三君が居る、今年仕事が大分有對に入つて鼻息も荒らぐそれに成

ある、それだけ兩者の間には大なる懸隔がある、然し乍ら産業組合は村の旦那方や郡内の有志家或ひは縣内の偉い人達が中堅となつて組織して居る爲めか下級民から見るとどうしても四角張つた御役所式のやうでもあるし官位臭味が濃に濃厚の嫌ひがないでもない、故に實際の處庶民金融機關としては餘りにも下層階級に縁が遠い恨みが存してゐるらしい

處に於てかインテリ金融の石城萬國會の如きが現はれて二三年間に二十萬圓の金をかき集めて蓄積を流たものであり、無盡は國家が監督指導する金融關係であるから不安や愛いは絶無とも云ふべきである、窮乏せる農村やセツパ迫つた中小工商業者を救ふには無盡業によることが近道であらう、此處に湯本無盡の如きは重疊を置いて済民救世家の氣魄を持って現務重役は庶民の經濟難局を匡救するの信念に燃れ主義一天張りでない處を多分に持つて無盡黨國に努力して居ることは地方庶民金融の解決にうれしき存在と云はねばなるまい

### 七年會

石城郡内郷村にある七年會は近來頗る隆盛を極め各地より來つて營炭に際々獨身者は修養なしと、貯蓄が多分に出來るより好評を博してゐる

### 正しく明るく 吾人の信條

◎近頃友人はよく大和田君は筆の人だから新聞を發行しなくてはダメだと云はれます。然し私の生活の基礎は印刷業なのであります。が警城之實業は既に二十年も發行して居りますから新聞必らずしも余技ではないのであります。過去を顧み將來を思ふ時、私は新聞紙本來の使命を全ふしたいと思つて居ります。

◎世に事業は澤山あります。が其の中でも新聞事業ほど至難な事業はないやうに云はれ

### 警城電氣 變遷發展

明治四十二年一月警城電氣株式會社が資本金五萬圓、發電出力二百キロが火力に依つて平町に十燭光が七十五錢で僅に千三百燭光火されたものが大正四年末東京井川水力電氣會社に四時川の水利權四萬圓を加へて十二萬で買収され大正六年中に郡山電氣と合併それから東部電力となり一昨年十月中大日本電力と合併買収されたのである。動力の用初めは大正五年平町一丁目馬目精米が二馬力のモーターを據付たのがイの一番で今日平市を

### 平市公益質屋 大体内容の特色

インテキ金融の中小商工五種會に引き掛つた庶民階級が地方に多數あるのを見てもいかに無産大衆の貧乏と欲との暗黒面は遙かふからざる社會の病根が深刻化して居ることを發見出来るのである。此の時に當つて平市は公益質屋を開設して最小限度の金融機關の使命を達成することになつた

と同じことでは何に事業でも幾多の困難に苦に逢はぬものはない。幸苦よく打ち克つものが始めて成功の彼方に達するのであります。

◎私は世間から誤解されて居るかも知れません。これは警城之實業を通じての事が多いのであります。それでは吾人の信條及び態度を率直に申上げて見たいと思つて居ります。

一、道は中道にあつて右でもなく左でもない。

一、政治上社會上、思想上横暴をふるふものは公敵として之れと戦ふ。

一、事實を事實とし是非を是非とし公平無私の筆を振る。

一、非常に難かしいことで多少の難見はありませうが前記の諸中心として附近町村を合せて十燭光（五十五錢を）換算して二萬五千燭光、小口電力を合せ其の使用料月に一萬圓以上に及んで居るのを思ふ時、

世の中の推移變遷の激しき事を痛感せられるが警城電氣當時よりの従業員として忠實に働いて居るのは現在吉田仁助氏一人であると云ふ。

人物などに迎合もしなければ公安を害す者には痛撃を加へます。

◎能達此の信條を守つて來ましたし行きもするのであります。が我々は既往を顧みて其の言行の一致して居らないことを感ずる場合が無いとは云へなかつたのであります。誠に悔愧に堪へない次第です。併し一面に於て多少なりとも社會に貢献したこともあつたと信じて居ります。

◎併し我々には現在の新聞の態度にあきたらぬ處が澤山あります。或意味に廣告掲載を交渉したりなどして余りに利益を主とする結果、分として計算する結果例へば四月二十八日に入費し五月八日に受け出すとすれば質屋質屋では之れを二月に亘る爲め二箇月分として計算するが公益質屋では質屋日数十日となり即ち十六日未満なるを以て半月分を徴収することになり質屋主に採つては差引一箇半月の利益となる譯である。質物の一部受戻し等は質屋契約の更改となり前契約を解き新契約を締結したることとなり隨つて其月分の利息は二重に徴収されるのであるが公益質屋は質屋契約の變更なきものでして、利子のみを計算するのである。他に利益條件が種々あつて詳細なる資金通に利

用されるのである。現在新川町邊の小口金融の高利貸は十九圓を貸して日掛け四十錢六十日二十四圓を返却させて居る。此の利率にも借手が多いと云ふことである。

### 内和合せる 郷村會

石城郡内郷村は縣下は勿論本郷でも一二位を占むるの大村が至つて平和の村で村會の如きは眞に自治の精神を發揮し萬事が懇話的に進まれ長何番と四角張つて甲論乙駁などは斷じてない少しく面倒にもなれば暫く休議して互が

掲げる處の記事が非常に際落して居ることであり、新聞事業も儲けなければ立つて行くこと出来ません。が余りに營利に走つて讀者にこび過ぎます。余りにへつらひ過ぎます。其の結果は随分見るに堪へないやうな記事が掲載されたり大事件が黙殺されたりします。如何に讀者を得んが爲めと云へ其の及ぼす影響は大に堪へせなければならぬことと存じます。

◎厳密に新聞の使命とは如何なるものかと云ふことになり、又社會の公共的機關であつて國家社會の爲め何處までも貢献して行かなければならぬものである。此の使命を遂げようとする。此の使命を遂げようとする。此の使命を遂げようとする。

自治制度は本年で滿五十年に達した。處で平は町から市と發展し

### 箱れすく

たのであるが明治二十年は前年平町が町制を實施された其年の町費は四千五百五十九圓であり翌二十三年には二千九百四十七圓、二十四年三千四百十六圓、二十五年三千九百十九圓、二十六年には日清戦争の余波を受けて一躍一萬八千八百七十七圓、三十年には一萬六千六百七十四圓、四十年頭から遂（四一〇）

らぬものだと思つて居ります。一般には新聞は唯社會萬般の事象出來事を敏速に且忠實に報導せしめればそれで好いと云ふやうに思はれて居りますが、決して左様ではなからうと思ひます。新聞は何處までも光明を與へる機關で無ければならぬ。暗翳を投ずる道具になつてはならぬと思ひます。旬刊無の如きは特に批判討論に重點を置いて厳正に正しく明るい筆陣を張らなければならぬのであります。これ地方紙中特に權威を存する以所たと存じます。私は此の意味に於て眞面目に使命と職責を遂行して行きたいと思つて居ります。

話を進めると云ふ美風を存し會社も村方もなく従つて民政黨もなければ政友會もなく衆村一致で善處して居るとは結構な大村である。

年増加して来たのであるが...

大躍進振り

ディーゼルの

平市六丁目ヤンマー商會新妻良平氏は農工兼用としてディーゼル使用時代と化さしめんとして奮闘してゐる、石城郡には石油發動機が六百臺もある...

七年會の趣旨

私は農村に生れ、農村の教育に携はり、海外に於て世界の大事を知つて、我が國の大使命を授けられたことに、之を古今に通じて發奮し、之を中外に施して悌らざる。教育勸進の大題目を奉體して國力の充實を計るに在るといふ、結論を得たのであります...

現況

本會は過去十六年間に、時に盛衰なきにしも非ずでありましたが、幾千の會員を送り出し、炭礦を住みよき寮しよき處とし、一家を構成して、現に永住するもの數百人を出し、御座り、御座り、一家更生資金を懐にして、故郷に歸する者、國内外に雄飛移住する者々々を多數に出して、今日に至つたものであります...

- 會長 石川哲郎
副會長 佐々木定四郎
事務主任 丸谷幸之助
庶務主任 卷幡光
内務主任 大内民恵
外務主任 渡邊清助
委員 鈴木武七、原辰兵次、鈴木長市、石川庄次、木田佐市、鈴木卯平治、渡邊武次、高根兵作、甲斐根丑治、鈴木久一、大友政壽

創刊二十周年を迎えて 異色を愈々發揮 御座り、御座り、一家更生資金を懐にして、故郷に歸する者、國内外に雄飛移住する者々々を多數に出して、今日に至つたものであります...

大和田與兵衛
福島縣平市仲町二十三
電話七二九番
磐城之實業社
大和田印刷所